

第25回 日本抜刀道連盟全国大会 …神奈川県立武道館で盛大に開催…

連盟創立以来二十五年を迎えた本連盟の『第二十五回日本抜刀道連盟全国大会』が、快晴にめぐまれた秋晴れの十月二十九日(土曜)。由緒ある剣の聖地、茨城県鹿島の本部道場「鹿島神武殿」から、神奈川県立武道館に移管し、予定通りの十時に開催。大会は盛大に開催され参加選手の気合が晩秋の武道館に走った…。

開会式は『選手各位の、この一年の修練成果と奮闘』を期待し、本連盟「第二十五回全国抜刀道大会」の開会を宣言すると、高らかに、大会実行委員長 中島 正夫(連盟副会長)の気迫ある肉声の力強い開会宣言で幕を開けた…。

そして、国旗に拝礼…。静寂なる、大会会場の中で、一同は君が代斉唱。続いて、今日の連盟発展の陰には多くの先生方がご逝去されている…。

その御霊に、ご冥福を祈り私達の誠を捧げたいと黙祷を行った…。

参議院議員 内閣府副大臣・大会名誉会長 岡田 広 先生からは、抜刀道は、剣道・居合・弓道・合気等々と同様に『武道』であり他のスポーツとは区別される…。

それは、武道は『勝敗』を至上命題とはせず、日々の修練を通じて人格の形成を主眼とした、高い精神性に重きを置いているからである…。

そして武士道は「知識と行動の一致」つまり『知行合一』の精神の実践であり、この事を念頭に日々の修練を積む事が抜刀道の神髄であるとの尊い貴重なお言葉を戴いた…。

また、大会会長 大江 正男(連盟会長)は、抜刀道団結を提唱され、中倉清先生・中村泰三郎先生・中村鶴治先生の意志を忘れる事なく大会を進め、各連盟との交流を深めて行きたい。

抜刀道修練の心得は練磨するものであって、上達の妨げとなるのは『慢心や我執』である…。本大会を安全第一に無事故で、好成績を納めてほしいとの挨拶があった。

続いて、大会顧問 中世古勝司(相談役)は、選手の技量の向上は目覚ましい…。しかし、中には斬ることにこだわり我流演武をする選手を見かける。制定刀法は、互角の腕を持つ武士同士の真剣勝負

を想定した刀法であり、この剣の理合を理解し修練しない限り上達は望めない…。そして、これらの我流は、武道で最も戒められている「慢心や我執」につながることになるので、心して修練に励んでほしいとの激励があった…。



…修練と絆 ◆ 絆と連帯…
…連盟の次代を担う各県各支部の精鋭選手の雄姿…
第25回 日本抜刀道連盟 全国大会
2016年(平成28年)10月29日 於：神奈川県立武道館

… “開会式” …

大会挨拶で選手激励をする
大江 正男 大会会長



↑ “真剣弘百邪” 露祓い…大塚光男 教務部長
大会を成功裡に導く審判団の先生方 ↓



連盟制定…組太刀：
立会・解説
中島 正夫 実行委員長

審判長 大塚 光男(教務部長)からは競技に望む選手の心得と審判判定の要点等々の注意があり…、続いて選手宣誓は、高知支部興武館の鈴木久慶選手が代表して行い参加選手の心意気を大会会場に響かせた…。

露祓いは、大江正男 大会会長の立ち会いにより競技中の安全を祈願し…大塚 光男 審判長が、会場の《邪》を厳肅に祓った。

連盟制定組太刀は、中島 正夫 実行委員長の立ち会いと解説により、打太刀・今村文彦 教士七段…。仕太刀・境 泰雅 錬士七段が凛々しく演武を行った…。

そして、競技開始の太鼓の合図で各会場は、審判団の先生方を中心に試合が展開され開会式で静寂した、会場の空気を一変して破り、選手各位の『熱気と闘魂』が、ここ神奈川県立武道館に走った…。

なお大会全般の総合司会は、菅野 茂 事務局長の手際よい進行で予定通りに進められた…。



◆打太刀：今村文彦 教士七段 ◆仕太刀：境 泰雅 錬士七段

神奈川県立武道館に走る
…選手の気迫…

競技◆試合

競技熱戦を通じ、参加選手の練度の向上が目立ち、各支部長・公認指導員を中心とした、修練指導の成果を感じ取った。

また大会競技は、審判主任を中心とした、審判団の先生方の真剣なるメリハリある審判判定の姿に、選手は刺激を受け気迫ある素晴らしい競技展開となった…。



成績発表 ◆入賞者一覧◆

会報

…◆第47号◆…
(P-3)

企画・構成・編集：広報部

個人戦・形、実技の部				
別段別合目	優勝	準優勝	三位	
制定刀法・形・個人戦	初段以下 庄司 一憲	くぬぎ かずよし 功刀 一好	もりもと まこと 森本 誠	くはら みのる 栗原 実
	二・三段 内田 尚仁	しろわ ひろたか 城和 広貴	ふしみ ゆき 伏見 由希	たむら さとる 田村 悟
	四・五段 譜久原 朝彰	ひだか けんじ 日高 健二	いのひざ たけし 猪膝 武士	はせがわ とおる 長谷川 徹
	沖繩支部 ヨランダ コレツ	ささき しん 佐々木 伸	うづか たくと 宇塚 拓人	もりもと まこと 森本 誠
制定刀法・実技・個人戦	初段以下 JOLANTA GOLEC	山形支部 たむら さとる	尚武館支部 こばやし ゆきお	高知支部 いたばし のぶたか
	二・三段 富川 仁	川崎支部 ふらおか みよ	川崎支部 小林 勇起男	板橋 宣孝
	四・五段 平岡 美代	藤田 僚	みやげ やすし 三宅 康司	軽部 慎也
	讃岐拔刀道支部	東京英信会支部	讃岐拔刀道支部	山形支部
団体戦の部				
制定刀法・団体戦	優勝 たかはし みちお 高橋 道夫	準優勝 まつだ かずお 松田 一男	ささき しん 佐々木 伸	ひらおか みよ 平岡 美代
	中堅 ふかわ ひとし 富川 仁	はまだ さだあき 濱田 定昭	くろだ のりみつ 黒田 了光	ながの たかし 長野 喬
	大将 たむら さとる 田村 悟	とくひろ まさつぐ 徳廣 真継	かるべ しんや 軽部 慎也	うらだ なおひと 内田 尚仁
	支部名 川崎支部A	高知支部A	山形支部	讃岐拔刀道支部B
殊勲賞 文部科学大臣	ふくはら ちやうせい 譜久原 朝彰		沖繩支部	
中村杯	ひらおか みよ 平岡 美代		讃岐拔刀道支部	
中倉旗	たかはし みちお、ふかわ ひとし、たむら さとる 高橋 道夫、富川 仁、田村 悟		川崎支部A	

… “閉会式” … 第25回 全国大会 “団体戦” 中倉旗 川崎支部(A)に栄冠

↓ 先鋒：高橋道夫・中堅：富川 仁・大将：田村 悟



◆ 殊勲賞 文部科学大臣賞 ◆

↓ 沖繩支部：譜久原 朝彰 選手



制定刀法実技個人戦
《優勝》四・五段の部
中村 泰三郎 杯
讃岐拔刀道支部
平岡 美代 選手



制定刀法形個人戦
《優勝》四・五段の部

大会開催中の選手の安全を守る
精鋭なる『巡回安全管理者』の雄姿



↑ 《ご苦労様 … 感謝合掌》
早朝から会場設営し選手を迎える… “準備委員の精鋭選手”
使用愛刀の安全確認… “刀剣検査” 高知支部 今村・境 両先生 ↓



- 川崎支部 田村 悟
- 東京英信会 成田 英右
- 八千代支部 藤原 弘通
- 埼玉武蔵会 相談役 中世吉勝司
- 大阪支部 長畑 卓治
- 鎌倉支部 小林 昭夫
- 山形支部 軽部 慎也
- 東京道場 柴田 輝久
- ◆ 実行委員長 中島 正夫
- ◆ 大会会長 大江 正勇
- ◆ 審判長 大塚 光勇
- ◆ 事務局長 菅野 茂
- ◆ 協議役 菅井 一彦



◆ 広報 ■ 会報発刊方針 《企画・構成・編集》は、愛読する連盟会員の立場に立って 『読み易く・親しみ易く』 広く連盟組織活動を伝える為に
“視覚”による、目からの“正確な情報”を提供したいと、ふんだんに“スナップ写真を使い 『構成・編集』 をしています…。

…武道発祥の地…

◆鹿島神武殿 閉館◆

永年に互り有り難うございました…



故 剣道範士
中村鶴治先生
在りし日の横顔

連盟会長 大江正男
役員一同

財団法人 鹿島神武殿 理事長・館長
全日本剣道道場連盟 副会長
東京都剣道道場連盟 会長
NPO法人日本抜刀道連盟 最高顧問



▼ 本連盟は二十四年前、「第二回日本抜刀道全国大会」を平成五年五月当館で開催した。その際大会プログラム作成の為に私は先生の新宿本社を訪問。挨拶を頂戴した際に戴いた、貴重な思い出の一枚の顔写真…。
▼ 中村鶴治先生の、在りし日の生気溢れるお姿を思い起こし、ここに改めて、当時の顔写真を掲載し、連盟会員と共に先生が我々に託した、遺訓「正統抜刀道の精神」の継承を誓い、故人のご冥福を心からお祈りする…。
【連盟本部 広報部長】

▼ 以来、鹿島神武殿は、武道の夢殿として、先生の初志の通り次代を継ぐ青少年の育成。地域の方々はもとより、全国各地の武道を志す、数多い人々の修練の場として、「多くの人材を輩し」武道界の歴史に残る、偉大なる功績を残し他界された…。



◆【中村鶴治先生：遺訓】◆
抜刀道は、剣道の原点であり、我が国が世界に誇る精神文化の粋とも言うべき武道の源流を為す…。
真剣を用いての修練は、一寸の《隙》すら許されず平素のたゆまざる…。「鍛錬と平常心」を保つ、精神力そして、正しい礼節から生まれる、人格形成の大道であると確信する…。

◆ 思い出の一枚の顔写真 ◆ ◆ 先生の横顔と功績 ◆
▼ ふと振り返ると、今から七十一年前… 私は、まだ小学生だった…。
日本は終戦を迎え、国内各地は焼け野原となり「物心」ともに「荒廃し混乱」する街中で日本国民は、心を奪われ明日への希望を失った…。
この様な時期に、中村鶴治先生は、荒廃した祖国日本の再建を夢みてこれを日本古来の伝統文化である武道に託して、剣聖・塚原卜伝の生誕地であり武道発祥の地である、鹿島のこの聖地に「総合武道場の建設」を計画。昭和三十六年(五十五年前)に用地を取得。関係各位の心暖まる支援を得て、昭和五十三年二月の建国記念日の日に竣工した…。

広報…編集◆後記…

“サヨナラ”！ …“鹿島神武殿”…

▼ 時の流れは実に早い…。本連盟創立以来、第2回の全国大会から第24回の抜刀道全国大会までの、22年間に互りお世話になった本部道場の“鹿島神武殿”が閉館となり一抹の寂しさを感じる…。

▼ 武徳振興財団として歩み続けた鹿島神武殿 初代館長・理事長の剣道範士・中村鶴治先生(本連盟最高顧問)は、武道と事業を両立させ、時代を継ぐ青少年の育成に心血を凝らしつつ日本の実業界では、知名度の高い“武道哲学”を実践する、尊く偉大なる大物の実業家であった…。



◆お人柄紹介◆

◆所属支部◆ 茨城 水戸支部

◆武道歴◆

抜刀道 範士 七段(日抜連)

剣道 初段 (全剣連)

水府新刀流剣術宗範 八段

◆趣味◆ 詩吟・音楽・園芸

◆座右の銘◆ “武道開心眼”

老骨に鞭打って頑張る！



森山 進 (84才)
茨城 水戸支部長



鹿島神武殿
支配人 深牧正誼先生

“菊づくり 菊みるときは 陰の人”

▼ 道場の館則は「敬神・誠心・礼節・精進・日常」の五則である。道場の修行は、日常の生活を根源となす…日常を離れて道場なしとの哲理もって閉館まで、鹿島神武殿を守り抜いた“その陰に”早大出身の、剣道練士六段 深牧正誼支配人は、神武殿を守りつつ地元の青少年育成に孤軍奮闘する尊い姿があった…。



副会長
本部 広報部長

▼ 全国から選手を迎え、大会を成功に導くその陰に、事務局長を初め準備委員の孤軍奮闘する中に、森山範士の姿がある。
▼ 嫡流水府新刀流 故・宗家 塙電光齋(筆名大会実行委員長) 一門で水戸支部の後を継ぎ活躍する…。
▼ 森山範士は剣舞の宗範。拝見すると通常の剣舞とは違いその動きは《剣の道の極意》正に「気剣体一致」の鋭さと気迫を感じる。そして、老骨に鞭を打ち頑張るとの、尊い心意気に頭が下がる…。「本部 広報部」

◆広報 便り

【誰もが気づかない発想】 ただ単に活字を“見るのではなく”… 50cmほど離して会報の1枚を眺めてほしい…！。写真を挟んで活字を縦横に巧みに組み合わせ、絵画を眺める様な「絵心の発想」で一枚の作品として「構成・編集」がなされています。抜刀道を通じたご自分の人生記録をセロケース入れて机の片隅に飾るもよし。名刺がわりに“COPY”して記念に配布するもよし。この様な“男のロマン”を勝手に抱き“連盟発展”の為、日々真夜中まで会報作りは続きます…。